

まちの活性化・都市デザイン競技(岐阜市柳ヶ瀬・玉宮通り周辺地区)

復興観光まちづくりコンペ(旭市いいおか)

「(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞」(主催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、(財)都市づくりパブリックデザインセンター、後援：国土交通省、岐阜県、岐阜市)
「作品題目：共に生きる・活きる暮らし～人の暮らしがみえるまちのなかのRe・Design～」

平成25年6月25日 受賞

日大生産工 ○川岸 梅和

1. 第15回2012年、まちの活性化・都市デザイン競技〈趣旨〉

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現在の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されています。こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めると共に、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成10年度より毎年実施しており、今年度で第15回を数えます。

今年度は、岐阜県岐阜市の岐阜駅周辺・柳ヶ瀬・岐阜大学医学部等跡地周辺(岐大跡地周辺)を結ぶ岐阜市の都心軸上に位置する「柳ヶ瀬・玉宮通り周辺地区」を対象地区に選定しました。対象地区において、「岐阜市中心市街地として発表してきた“柳ヶ瀬”周辺を再活性化するための都市デザインの創出」をテーマに、柳ヶ瀬や玉宮通り周辺地区を生かした新たな魅力づくり、周辺地区と連携したにぎわいの創出や回遊空間の創出、良好な景観形成等のための様々なアイデアと都市デザインについて提案を求めます。

応募登録数：52、応募作品数32

平成25年1月21日に審査が行われ、4作品が入賞し、本作品は(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞を受賞した。

「第15回まちの活性化・都市デザイン競技」では「共に生きる・活きる暮らし～人の暮らしがみえるまちのなかのRe・Design～」を作品のタイトルとし、継続的に研究活動として行ってきた『居住者参加型(コーポラティブ方式)の「まちづくり」と「住まいづくり」の一環』として「コーポラティブハウジングによるまちなかの居住と賑わいの創出」に加えて「まちなかのコントラストの演出」として「聖と俗」「自然と人工物」「ハレとケ」「建前と本音」等人々の暮らしを軸とした住・商・教育そして継続的な研究テーマである余暇活動と空間の相互浸透関係から創生される種々の都市生活デザインと構成要素について提案を行った。



図1 計画地(岐阜市)提案模型



図2 提案図面

Activation of the City・Urban Design Competition(Gifu Yanagase・Tamamiya Dori)
Reconstruction Tourism Town Planning Competition(Asahi Iioka)

Umekazu KAWAGISHI

「佳作、市民賞」（主催：いいおか津波復興プロジェクト、後援：旭市、旭市教育委員会、(社)千葉県観光物産協会、(社)千葉県建築家協会、(社)日本建築学会千葉支所、(社)千葉県建築士会、(社)千葉県建築士事務所協会他)「作品題目：Community Supported IIOKA～共に生きる・活きる暮らし～」 平成25年3月3日 受賞

2. 旭市いいおか復興観光まちづくりコンペ 〈趣旨〉

いいおかエリアの復興観光まちづくり＝津波と折り合えるまちづくり～九十九里の起点
いいおか漁港／漁業・農業・観光・防災・文化の拠点を目指して～

旭市いいおかは、江戸後期イワシの豊漁に全国各地から人々が押し寄せ集落を形成した地域です。飯岡漁港につづく、みなと公園の西端、竜王崎に立つと、東に刑部崎、西に九十九里が続く雄大な景色に魅了されます。波止崎とも呼ばれるように、波の音がお腹から響いてきます。

護岸防波堤のそばに大きな木の鳥居と石碑があります。昭和12年の護岸竣工の碑には次の様に書かれています。「…本海岸線は、…祖先が大自然と抗争を続け来たりし箇所にして…打ち寄る狂乱怒涛の威力に対しては常に敗残の歴史を繰り返し…(中略)」昭和チリ津波も平成チリ津波においても護岸完成箇所は何ら被害もなく、確かに嘉悦をもって波止に感謝したのでしょうか。しかし今回の東日本大震災では無残にも敗れ去りました。多くの家屋が流失し、全半壊(1272世帯)し、人々が長年にわたって育んできた街並みや文化にも甚大な被害を被りました。しかし振り返ってみれば、明治の半ばから昭和の初めまでに起きた飯岡周辺での「海成」の面積は今回の大震災での浸水域よりもはるかに広いものです。その意味で、海の自然と折り合えるまちづくりが必要です。「旭市いいおか復興観光まちづくり」にあたっては、歴史と被災体験を生かした「循環型・文化共生と福祉のまちづくり」を目指して、地域の人々と行政との協働で、その方向性を模索すると同時に、多くの方々のアイデアなどを活用し、幅広い視点から検討を重ねることが重要だと考えるに至りました。

応募作品数：39

第1次審査において16作品が選出され、平成25年1月19日、公開プレゼンテーションが行われ、第2次審査の結果、8作品が入賞し、本作品は佳作を受賞した。同時に一般市民による投票の結果、市民賞も併せて受賞した。

「旭市いいおか復興観光まちづくりコンペ」では「Community Supported IIOKA～共に生きる・活きる暮らし～」を作品のタイトルとし、2011年3月11日に起きた東日本大震災の被災地である千葉県旭市飯岡地区の復興計画案を提案した。

いいおかの自然、特に豊かな海との共生を目指し飯岡漁港では、防災・減災の観点によるフローディング(浮体)ユニット等工学技術的手法を提案すると共に、これまで継続的に研究活動として行ってきた『居住者参加型(コーポラティブ方式)の「まちづくり」と「住まいづくり」を2本柱』として、地域で創生されるコーポラティブ・コミュニティを基盤としたハードとソフトの同時進行から生み出される種々の生活(暮らし)デザインの提案を行った。同時に、「孤住から個住に、そしてCo住に」を具現化するためのコンパクトシティ構想を提案した。



図3 計画地(千葉県旭市飯岡)提案模型



図4 提案図面